

より良い景観検討のためのカルテ（チェックシート）

記入年月日：令和5年12月12日

チェック担当課：施設マネジメント課

事業の概要	
事業名	郷土館旧平安邸耐震補強改修等事業
事業個所・対象地	郷土館（旧平安邸）・下財町
事業期間	令和3年6月～令和6年9月
事業の対象となる 公共施設等	<input type="checkbox"/> 道路 <input type="checkbox"/> 橋梁 <input type="checkbox"/> 河川・水路 <input type="checkbox"/> 公園・緑地 <input checked="" type="checkbox"/> 公共建築物等
事業に含まれる要素 （個別指針より）	<input type="checkbox"/> 法面・斜面 <input type="checkbox"/> 擁壁 <input type="checkbox"/> 護岸 <input type="checkbox"/> 舗装 <input type="checkbox"/> 付属施設（防護柵、公共サイン） <input checked="" type="checkbox"/> 建築物
構想・計画段階（各事業共通）	
項目1	景観形成の指針を把握する。
項目2	共通指針（全体指針 A-1～A-5、B-1～B-5）の内、本事業で特に配慮する指針と具体的に配慮する事項を記入する。
（例） B-3	（例） 歴史・文化的背景を考慮するため、現地調査を実施する。
A-2	国登録有形文化財・兵庫県景観形成重要建築物であり、建物の劣化・耐震診断を行い、その結果等に基づき修繕改修計画を策定する。
A-1	川西市文化財審議委員の意見を聴取し、改修計画案を作成する。

設計・施工段階 / 公共建築物等		
基本指針、共通指針、景観類型別指針を踏まえた「より良い景観検討のための景観配慮事項」への対応と、具体的に配慮・検討した内容を記入する。		
✓	より良い景観検討のための配慮事項	配慮・検討した内容
■	歴史的建造物の保全に配慮し、必要に応じ、複合的に活用した計画を探る。	歴史的建造物の保全に配慮し、バリアフリー等の要素を含め複合的に活用した計画とする。
■	<p>形態・意匠・色彩（デザイン）は、地域の伝統的な素材や色彩の活用に配慮した計画を探る。</p> <p><b>【具体的配慮事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落内の建築物や伝統的なまち並みにおいては、瓦屋根や板張り、しっくい壁の白色、土壁や木材等に見られる薄いベージュ色、和瓦に見られる銀ねず色等と同じ材料、素材を用いることで、周囲のまち並みとも調和しやすくなるため、同類の材料や同系色の色彩を積極的に使用する。</li> <li>・ただし、大規模建築物などの大きな壁面で白色を用いると、周囲から際立ってしまい、不調和になることがあるので注意が必要。</li> <li>・彩度の基準（景観形成基準） R,YR系6以下、Y系4以下、その他2以下</li> </ul>	川西市文化財審議委員の意見を聴取し、改修計画を作成。
□	<p>植栽は、敷地内・外からの見え方を意識した樹種の選定・配植を検討する。</p> <p><b>【具体的配慮事項】</b></p> <p>規模に応じて、県条例・開発指導要綱の緑地面積を確保</p>	
■	柵・フェンス等は、閉鎖的にならない意匠・色彩を検討する。	敷地周囲の屋根塀については、屋根・壁のしっくいを既存色に合わせ、景観に配慮したものとする。
■	施設名表示や案内板等のデザイン統一化を検討するとともに、シンプルで控えめなデザインを検討する。	検討中